

10月13日、政策秘書課職員との話です。

まちの宝物をみつけよう

10月2日に行われた「長久手未来まちづくりビジョンシンポジウム」で、東海テレビアナウンサーで、東海地区をくまなく歩かれた経験を持つ高井一さんに「まちの宝物をみつけよう！」と題して基調講演を行っていただきました。

その中で、東海各地の「宝物」の一つとして、岩作地区で毎年8月10日、安昌寺くまんくせんにちえの九万九千日会に合わせて展示さ



れる「岩作あんどんの会」の活動を紹介していただきました。みなさんは、ご覧になったことはありますか？

高井さんは、「どのまちでも言えることですが、そこに住む人たちが、案外、地元の『宝物』を知らないことが多い」とおっしゃっていました。

そして、「ぜひ、まち歩きをしてください。そのときには、カメラを片手に持って、すれ違ったらお互いに『何か、いいもの、見つけられましたか？』と声を掛け合い、情報交換をしてみてください」と提案していただきました。



「新しいまち」というイメージを持つ方も多い長久手市ですが、戦国時代の長久手合戦にまつわる史跡のほかにも、多くの文化財や言い伝えが残っています。

例えば、オマント（警固祭り）は、今年10月11日に行われた岩作地区のほか、長湫地区、上郷地区の3地区に伝わる本市が誇る祭りです。

前熊地区の多度神社には、山車があります。今年9月には、地元のみなさんのご協力により、全国都市緑化あいちフェアのサテライト事業の一つとして、福祉の家での引き回しをしていただきましたが、長久手市にも山車があることに、多くのみなさんが大変驚いてみえました。

そのほかにも、言い伝えとして、頭下の病（目、鼻、口、歯、耳、頭の病）を直してくれるという「八左衛門の墓」や、耳の病気に効くと言われる「耳塚」、日照りを救った「八大龍王の碑」などもあります。また、7世紀前半のものと伝わる古墳や8

世紀末頃の古窯も市内に点在しています（※）。

11月から12月にかけて、「リニモ秋色ウォーキング」が行われます。高井さんも、このリニモウォーキングに参加して、長久手市の魅力を再発見することができたとおっしゃっていました。毎回1,500人ほどが参加するこのリニモウォーキングも、長久手市の宝物の一つでしょう。

まちを歩くと、いろいろなことが見えてきます。ぜひ、爽やかなこの季節、まち歩きをしてみませんか。

※詳しくは、生涯学習課、郷土資料室で配布している「文化財マップ」をご覧ください。

～市長の話を聞いて～

私も高校生のときに長湫地区に引っ越してきましたが、役所に入るまで、長久手に香流川が流れていることを知りませんでした。住んでいる地域の警固まつりは知っていましたが、その他の地域のお祭りは知りませんでした。きっと、多くの方がそんな感じなのでしょう。

私は、最近、朝にウォーキングを始めたのですが、「あそこの葉っぱが、赤くなり始めた」「毎朝、太極拳をやっている人たちがいる。私も参加してみたいな」などなど、何気ない日常での発見があります。市長は、ほぼ毎朝、市内を歩いて通勤されていますので、気付くことがたくさんあるのでしょう。

ところで、首から上の病気を治してくれるという「八左衛門の墓」は、昔、乱暴者だった八左衛門に困った村人たちが、彼を生き埋めにした際に、「頭下の病（目、鼻、口、歯、耳、頭の病）を直してやる」と言って息絶えたと伝わっています。その後、大食漢だった八左衛門のために、後の人々がお墓に食べ物を備えて病気平癒を祈願したと伝わっており、今も、地元の方々が大切に守ってくださっています。「首から上の病気＝頭＝脳」であるならば、もしかしたら、認知症にも効くのかしら…？と思っています。